

第876号

令和3年3月8日

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室

教室だより

〒952-1209

佐渡市千種丙178番地1

TEL:0259(63)4156(直)

4115(代)

FAX:0259(63)4117

E-mail:skotoba@sado.ed.jp

HP:<http://kanai-es.sado.ed.jp>

(教室だよりのバックナンバーも掲載中)

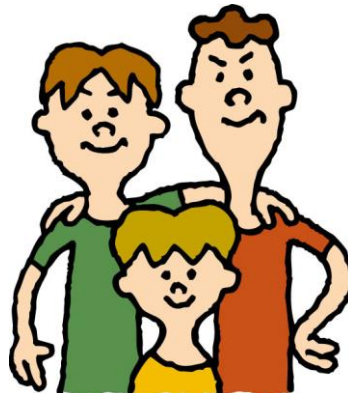
浅知恵は見抜かれていた

佐渡総合病院 小児科
医 長 岡崎 実

死にたくなるほど悩んでいる子どもたちがいます。もともと持って生まれてきたものがあり、それと折り合わない浮き世の生活がある。そこでもがき続ける毎日のほんの一部、共に語り合って解決の光を探してきました。他の選択肢も乏しいので、私の下手な伴走にもつきあってくれている一生の仲間たちです。その親友の一人から、これまでいっしょに重ねてきた面談で、彼らを感じたことを以下のように教えてもらいました。

話を聞いてくれるにしても、ただ聞いてくれるだけでは何も残らない。ましてや、一度言ったことをまた聞かれると一気に熱が冷め、話す気がなくなる。自分の考えを伝えてくれた言葉のいくつかは残っている。しかし、「なんか調べてきて使ってるな」「自分のものになってないな」というのはすぐ分かる。専門じゃないって言い訳されてもどうしようもない。

こんなありがたいご指摘があって面談を楽しめるようになってきたこの20年です。



発音のお勉強

「サカナがシャカナになる」, 「キリンがチリンになる」, 「ブドウがブロウになる」など、ある音を出そうとしたときに、その音がうまく出せない場合があります。

そんなときに、ことば・こころの教室で練習します。

『構音障害の指導技法—音の出し方とそのプログラム—』(湧井豊著, 学苑社)を読むと、その序文に田口恒夫先生が発音の動作の巧緻性^{こうちせい}について述べられ、その難しい発音練習を成功させる条件を三つ述べています。

まず第一に、その練習が好きでなくてはならない。楽しくなくてはいけない。(…中略)

第二に、不安、緊張、恥じらい、ためらいなどがあってはいけない。(…中略)

第三に、モデルの音をはっきり度々聞かせてもらえることが大切である。(…中略)

またその序文には、「基本的に、乳幼児期の構音学習条件をそっくりそのまま再体験させてやればよい。」とも述べられています。

私なりに、この三つをまとめると、「楽しく安心できる環境で、正しい音にたくさん触れることが大切」となります。

そんな発音のお勉強ができる教室でありたいと思っています。

(仲田)



親の会コーナー



ことば・こころ応援団



保護者の声

ありがとうございました

両津地区 W・E

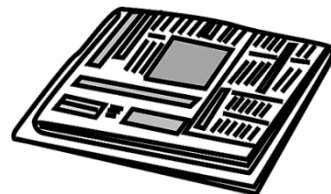
ことば・こころの教室には、保育園のときからお世話になりました。初めはどんな事をするのかわからず不安がありましたが、実際に行ってみて口や舌の動かし方を聞き、私自身も勉強になりました。ゲームは特に楽しみだったようで、教室でほめていただく事も多く、本人は自信を持つことができ、やる気にも大きくつながっていった事を感じました。先生方のご指導のおかげで楽しく通うことができ、今回終了をむかえる事ができ、大きく成長できたことをうれしく思います。大変お世話になり、ありがとうございました。



新潟日報に掲載されます

博報賞受賞について、3月16日（火）の新潟日報にて取り上げられる予定です。昨年12月に新潟日報の本社から担当者ライターの方が来られて、取材を受けたときのものです。

博報賞の受賞理由や佐渡ことば・こころの教室での活動内容が、大きく紙面をとって掲載される予定です。取材日には、偶然にも教室初代担当の計良益夫先生も来校されて、一緒にインタビューを受けられました。どうぞ、ご覧ください。



風が吹いている

元教室担当 水谷 武

当時担当したAさんの母親と担任から、Aさんの特性を学級の人々に分かってもらえるような便りの作成を依頼されました。初めての試みでしたが、保護者からの駄目出しを受けながらも何度か書き直した後に、校長、担任、保護者、通級担当の4人連名の便りが完成しました。Aさんが授業中に突然声を張り上げ、異なる行動を取っても、学級の子供たちが自然な形で受け入れてくれたことで、その後のAさんの自己実現や成長につながったと感じています。

ことば・こころの教室の子供たちは、在籍する学校や学級から指導時間に合わせてやって来ます。通級担当者は子供たちの担任ではない分、指導にあたっては在籍する学校や学級担任との連携が欠かせません。前述の事例は連携の一つの成果と捉えています。

最近見た新聞記事によれば、来年度から通常学級の担任が通級指導を見学し、指導やアドバイスを受けつつ対応力の向上を目指す教員育成事業が始まるとのこと。これは別の見方をすると、より一層連携が図られることを意味しています。通級関係者への絶好の追い風となることを期待しています。

